



タネ tane Vol.2

何かが芽生える種になる



第2号は
あなたの一步を
後押しする記事
をお届けします。

© Kazuki Yamashita



菊池信孝さん

特定非営利活動法人インターナショナル代表理事

[profile] 高校1年生のときに発生したアメリカ同時多発テロをきっかけに、国際協力や平和構築に興味を抱き、大阪外国語大学に進学。在学中に「食べられないもの」がある留学生との食事に苦労した経験から、すべての人に食の安心を届けるフードピクトの取り組みを開始。



© INTERNASHOKUNAL & NDC Graphics

食とクリエイティブで共生社会をつくる

失敗が気づきに

大学1年生の時に、サウジアラビアから来たイスラム教の留学生の食事のおもてなしに失敗したことが活動をはじめのきっかけとなりました。日本食を食べてみたいというリクエストで、お寿司やおそばのお店にご案内しました。けれども、宗教上禁止されている豚肉やお酒が入っていないかを確認する方法がなかったのです。僕らが「入っていないから大丈夫だよ」と言っても初めて見る異国の料理に対して「やっぱり安心できない」と言われてしまいました。結局その日はマクドナルドに行ってフィッシュバーガーを食べるという体験をしました。そこから活動がスタートしていきます。

食の多様性を身近に

主な活動は、できあがった料理や食品に何が入っているのかが一目で分かる食材絵文字“フードピクトグラム”の普及と、研修やコンサルティングです。日本の食事体験を楽しみに来る訪日外国人の3分の1が滞在中「食に困った」と回答しています。また、世界75億人中、3人に1人が宗教上やアレルギーなどの理由で食べられないものがある状況の中、日本では食の多様性への対応が遅れています。フードピクトグラムはそういった社会課題をデザインで解決しようという取り組みです。

私たちのフードピクトグラムは国際規格で決められているピクトグラムの作り方に沿って、世界1500人に調査し、苦労しながら作成しました。APEC（アジア太平洋経済協力）を皮切りに様々な国際的な催しで採択され、現在全国約1600店舗でご使用いただいています。フードピクトグラムがあることによって外国人だけではなく、アレルギーがある日本人からも「外食がしやすくなった」という声や、ホテルや飲食店の従業員からも「正確なコミュニケーションができるようになり役立っている」という声をいただいています。

NPO法人の他に、株式会社や個人事業主としての取り組みもあり、一つのミッション、ビジョンに対して複数のアプローチで取り組んでいます。

実は従業員は0人で、さまざまな会社から事業ごとに共感ベースで集まった仲間と活動しています。川を下るように流れを読みながら、トライ&エラー、実験を繰り返して仲間を集めていくスタイルでこれまで活動を行ってきました。

まずは言葉にしてみる。

これから活動される方は、できることからやってみるのがいいと思います。やってみるのは結構大変でも、まずは喋ってみる、言葉にしてみるというのは大きいことだと思います。僕の場合、活動を始めたときは学生だったので、お金も人脈も経験もないなかで、喋ってみたら仲間ができました。そこから仲間達と多言語表示を試してみたことが、フードピクトグラムをつくるヒントになりました。また、全部自分でやろうと思わないで、得意な人に得意なことをやってもらうというのも大事なポイントではないかと思います。

あなたは
どのタイプ？
一歩踏み出す

YES
NO

チャート

YES：ピンク
NO：ブルー



団体を立ち上げた

ひとの話

フォー・スプーンの会 代表
古田豊子さん



Q 団体を立ち上げようと思ったきっかけを教えてください。

A 市民活動情報サロンで、地域の子どもを守る活動や、SDGsにつながる地域活動、ものづくりの活動に経験のある今のメンバーを紹介してもらったことで、4人で活動を始めることになりました。“自分らしく豊かな暮らしを築きたい”という願いを持ちながらも、諦めてしまっている人のお手伝いをしたいと思って活動を始めました。ちょうど日本家政学会公認の「家庭生活アドバイザー」になったことも活動を始めるきっかけのひとつです。

Q 現在どのような取り組みをされていますか？

A まだスタートしたばかりで活動はこれからというところですが、8月には、「小さくなった服の思い出を残そう！エコバックを作ろう」というテーマで、身近な生活の中でのSDGsの実践にトライしました。夏休みということもあり、小学生の参加がありました。今後は、食育を通じた人間関係づくりを広めたいと思っています。今の時代にあった“頑張らない食育”や、人と人の関係を豊かにする力が食にはあることも伝えたいと思っています。

Q 団体を立ち上げたいと思っている人へメッセージをお願いします。

A 何かやりたいと思った人は一度、市民活動情報サロンへお越しになったらいいと思います。私の場合は、色々な情報をもらうことで方向性が見えてきました。メンバーをつないでいただいたことも感謝しています。

ボランティア

はじめたひとの話

おもろ荘プロジェクト ボランティア
松岡瑞季さん



Q ボランティアを始めたきっかけを教えてください。

A 小さい頃から保健室の先生になることが夢で、現在も大学に通いながら勉強をしています。そんな中、実際に子どもと触れ合う機会が欲しく、ボランティアを始めようと思いました。母親に相談してみたところ、市民活動情報サロンの存在を教えてくださいました。早速電話をして、居場所づくりを行っている団体さんを紹介していただきました。

Q 実際にボランティアを始めてみてどうでしたか？

A ボランティア活動は楽しく行かせてもらっています。私が参加しているのは居場所づくりを行っている団体なので、子どもたちと一緒にトランプをしたり勉強を教えたりして過ごしています。もともとコミュニケーションを取ることは苦手ではなかったのですが、実際に子どもたちと接する中で学ぶことも多いです。保健室の先生になってからも活かせる経験ができていると思っています。

Q ボランティアを始めたい方へのメッセージ

A まずは自分の興味のある活動を行っている団体に気軽に体験で参加してみると良いと思います。また、自分に必要なスキルが身につけられそうな団体を探してもいいかもしれません。私は体験で行ったボランティア先でその後も継続して楽しく活動に参加できており、子どもとのコミュニケーションや関係性づくりの方法なども学べているので、最初にあまり考えすぎず一歩踏み出して良かったと思っています。

団体を立ち上げる

とよなか夢基金の助成金をぜひご活用ください。
サロンでは助成金申込みのサポートも行っています。

※とよなか夢基金とは…市民や事業者の皆さんが行う社会貢献活動を応援しようという人たちの思いを、寄付金という形で市が受けとって積み立てる貯金箱のような仕組みです。積み立てた寄付金は、毎年さまざまな社会貢献活動への助成金として活かされます。

市民活動情報サロン
HPを見る



市民活動情報
サロン HP

寄付をした

ひとの話

ひなたほっこ 代表
條 晋太郎さん



Q クラウドファンディングで寄付されようと思ったきっかけや、寄付する際のポイントを教えてください。

A 友人からの紹介で最近2つのクラウドファンディングに寄付しました。私が寄付をする際のポイントは3つあります。1つ目は、寄付を集めようとしている方の物語が自分の胸に刺さるか、2つ目は寄付することでどういう循環が生まれるのかや、寄付の使い道が明確かどうか、3つ目は自分にとってどんなプラスがあるかということです。

Q 実際にクラウドファンディングで寄付されていかがでしたか？

A 寄付をしたお返しとしては、専門家からアドバイスをもらう機会や、月1回報告会を行うFacebookグループへの招待等がありました。報告会では、寄付先の活動状況や成果・課題などを共有してもらい、並走している感覚でした。経緯を見て知っていると、悩んでいる点も分かり、必要な情報を紹介することもありました。経緯（ストーリー）を知っていると協力したいなど自然と思いました。

Q 寄付をしてみたい方へメッセージをお願いします。

A 寄付先のことも、自分のこともよく知ることが大事だと思います。少しでも気になることがあれば深く知るために問い合わせしてみるのいいと思います。私もWEBサイトだけじゃ分からない部分を質問することによって、相手の想いにも触れられたことがありました。そして同時に自分は何を大事にしたいのかが自分自身のことを知ることも大事だと思います。

※クラウドファンディングとは…「群衆 (Crowd)」と「資金調達 (Funding)」を掛け合わせた造語で、インターネット上で不特定多数の人に資金調度を広く呼び掛けること。

地域 SNS 「ピアZZ」で イベントのお知らせ・仲間募集 をしてみませんか？

- 豊中市と連携している地域密着アプリ！
- 無料で使える！
- そのほか、不用品の譲り合いやグルメ情報など情報もたくさん！



登録は簡単！
アプリはこちらから



ピアZZ



開催予告

2/24 14:00-16:00 ピンポイント講座

市民活動団体の紹介動画を作ってみよう!

SNSなどでより効果的に普段の活動内容を紹介したいと考えている市民活動団体さんはいませんか。講座を通して動画の作成方法を学び、広報に活かしましょう!他の団体さんの紹介動画を参考にしながら、動画の企画・構成からスタートする予定です。

2/25 19:00-20:30 ちゃぶだい集会 vol.34

発達障害に特化した就労支援

発達障害のある若者の就活・キャリア支援を行う株式会社エンカレッジより山本愛子さんをお招きし、発達障害の方の就労支援についてお話いただけます。発達障害についての説明や、どんな就労支援をしているか、どんな働き方をされている方がいるか等お聞きしたい方はぜひご参加ください。オンラインで開催。2/1より申込開始。

開催報告

これまでに開催した市民活動情報サロン主催事業の一部をご紹介します。

9/15 開催 ちゃぶだい集会 vol.29

子どもとスマホの関係性について

まず初めにYouTubeに投稿されていた今回のテーマに関する動画を視聴後、参加者全員とディスカッションを行いました。参加者の中にはスマホを持たせることに肯定的な方、否定的な方の両方おりスマホとの向き合い方についてのディスカッションは非常に盛り上がりました。最後にスマホに対する印象がどう変わったのかを一言ずつ発言して終了しました。

10/19 開催 ピンポイント講座

地域 SNS アプリ『ピアッツァ』活用講座

PIAZZA 株式会社の方を講師にお招きして、市民活動団体を対象に、地域 SNS アプリ『ピアッツァ』の活用講座を行いました。講座の中では、参加された方はサポートを受けながらイベント投稿などの機能を活用し活動の情報発信を行いました。また、講座終了後のアンケートでは、今後も広報活動にピアッツァを活用したいという感想が寄せられました。

10/26 - 10/30 開催

豊中市制 85 周年記念 「あつまれ みんなのサロン」

豊中には 147 の市民公益活動団体があり、その活動紹介と PR を兼ねてパネル展とミニワークショップを開催しました。豊中の古い写真の展示やサロンの歴史を展示するコーナーもあり、普段サロンをあまり利用されない市民の方にも広くサロンを知ってもらえる機会になりました。阪急電鉄様のご協力で駅にポスターを貼って頂き大勢の方に来てもらえる機会となりました。

11/19 開催 ちゃぶだい集会 Vol.31

地域特性から考える居場所づくり~京都編~

(公財)京都市ユースサービス協会より竹田明子さんをお招きし、京都の若者の居場所づくりについてお話いただきました。参加者の方の関心が高く、沢山の質問が寄せられました。参加者からは「地域特性に合う居場所を作るには、当事者(若者)の声をまずは集めることが大事だと思った」「ぜひ見学に行ってみたい」などの感想が寄せられました。

サロンの SNS をぜひチェックしてみてください!



読者アンケート

にご協力願います。あなたの声をお聞かせください。



豊中市市民活動情報サロン

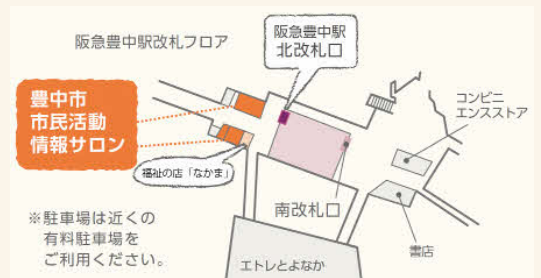
住所: 〒560-0021 豊中市本町1丁目1番1号 (阪急宝塚線・豊中駅北改札口出ですぐ)

TEL: 06-6152-2212 FAX: 06-6152-2213

MAIL: toyonakasalon@jcom.zaq.ne.jp

【開館時間】
午前 10 時から午後 7 時まで
(水曜・金曜は午後 9 時まで)

【休館日】
日曜・月曜・祝日・
年末年始 (12月29日~1月3日)



tane (タネ)
豊中市市民活動情報サロン
ニュースレター Vol.2

発行: 豊中市市民活動情報サロン
編集: 豊中市市民活動情報サロン
(運営受託団体: 特定非営利活動法人とよなか ESD ネットワーク)
デザイン: 大西未生
発行日: 2022年2月 発行部数: 2,500部

